HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館におけるシステマティックレビュー執筆支援
Author(s)	川村, 路代
Description	大学図書館研究会第53回全国大会（オンライン）第2分科会 利用者支援「医学・医療系図書館における利用者支援」. 2022年9月18日（日）, ウェブ開催. 主催：大学図書館研究会
Issue Date	2022-09-18
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/86814
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	conference presentation
File Information	2022Kawamura_daitoken.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

2022.9.18 大学図書館研究会 第53回全国大会
第2分科会 医学・医療系図書館における利用者支援

話題提供

北海道大学附属図書館における
システマティックレビュー執筆支援

北海道大学附属図書館 研究支援課医系グループ
川村 路代 | mkawamura@lib.hokudai.ac.jp
ヘルスサイエンス情報専門員（中級）

経歴

川村　路代

北海道大学附属図書館

2005 – 2008	目録担当
2008 – 2013	図書受入担当
2013 – 2018	医学部図書館
2018 – 2021	保健図書室
2021 –	歯学部図書室

近頃の関心ごと

講話「インターネットとうまくつきあうための情報の見極め方」

川村 路代. 大学図書館と自治体との連携によるヘルスリテラシー講座. 医学図書館. 2020, vol. 67, no. 4, p. 263–7.

本日の話題提供について

「システマティックレビュー執筆支援」事例報告

- 当館の研究支援活動「文献検索相談・代行サービス」*の一環
- 令和3年度国立大学図書館協会賞を受賞
- 「医学図書館」69(3)（2022年9月発行予定）に事例報告が掲載

*北海道大学附属図書館 医系グループ. “文献検索相談・代行サービス”. Hokkaido University Library. https://www.lib.hokudai.ac.jp/med/search/ (参照 2022-08-16).

*川村路代. 北海道大学におけるシステマティックレビュー支援：始まりとその先. 2019. https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/76425 (参照 2022-08-22).

2013年、当館では
利用者アンケートを
実施していた

そこには…

To. 医学部図書館<med@lib.hokudai.ac.jp>

現在実施している利用者アンケートの自由記述に
以下のような記載がありましたので
貴館から回答願います。

> 海外留学中に「システマティック・レビュー」のリサーチをした際、
> 図書館スタッフに文献検索のデータ集めのサポートを
>していただいたのですが、そのようなサポートは
> 可能なのか教えてください。　消化器外科II ●●

システマティック・レビュー って何!?

PART 1　システマティックレビューとは

Part1 について

Part 1 では主に以下の内容をお話しします

- システマティックレビューの定義・背景・特徴・活用場面
- 著者にとってのシステマティックレビュー
- システマティックレビュー作成における図書館員の役割

定義

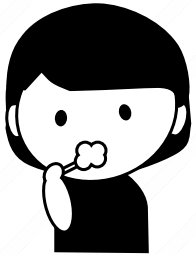
- 特定の研究課題に答えるために、あらかじめ定めた適格基準を満たすすべてのエビデンスを特定、評価、統合しようとするもの（The Cochrane Collaboration*）
- 特定の問題に絞って、類似した、しかし別々の研究の知見を見つけ出し、選択し、評価し、まとめるために、明確で計画された科学的方法を用いる科学研究（Institute of Medicine**）
- 厳密で透明性のある方法を用いて、関連する多くの研究を包括的かつ公平に統合し、1つの文書として提供すること（JBI***）
- CQに対して、研究を網羅的に調査し、研究デザインごとに同質の研究をまとめ、バイアスを評価しながら分析・統合を行うこと（Minds****）

* “About Cochrane Reviews | Cochrane Library”. https://www.cochranelibrary.com/about/about-cochrane-reviews, (参照 2022-09-16).
** Research, Institute of Medicine (US) Committee on Standards for Systematic Reviews of Comparative Effectiveness, Eden, Jill, Levit, Laura, Berg, Alfred, Morton, Sally. Summary. National Academies Press (US), 2011. https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK209513/ , (参照 2022-09-16).
*** “1.1 Introduction to JBI Systematic reviews - JBI Manual for Evidence Synthesis - JBI Global Wiki”. https://jbi-global-wiki.refined.site/space/MANUAL/4687241/1.1+Introduction+to+JBI+Systematic+reviews, (参照 2022-09-16).
**** “第4章 システマティックレビュー”. Minds診療ガイドライン作成マニュアル2020 ver.3.0 | Mindsガイドラインライブラリ. https://minds.jcqhc.or.jp/s/manual_2020_3_0 , (参照 2022-09-16).

ざっくり解説

臨床上の疑問について

キシリトールって
虫歯の予防にいいの？



報告した論文を集め

論文①
キシリトール
トローチ
vs.
対照トローチ

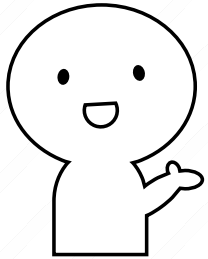
論文②
キシリトール入り
ハミガキ
vs.
フッ素のみ
ハミガキ

論文③
キシリトール
経口シロップ
vs.
対照シロップ

論文④
キシリトール
錠剤
vs.
無治療

まとめて一定の結論を出す

キシリトール含有
ハミガキは小児の虫歯を
減らすかもしれません



研究者

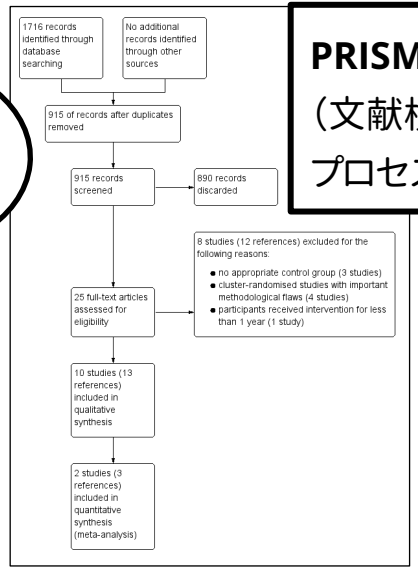
じゃあ
システマティックレビューって
他人の研究をまとめただけなの？

- 標準化された方法論（PRISMA*、GRADE System** 等）に従い実施される
- 複数の論文を統合するため、大きなサンプル数が得られ
  事実をゆがめるようなバイアスも少なく、信頼性が高い

* https://www.prisma-statement.org/
** https://www.gradeworkinggroup.org/

プロセスと特徴

- リサーチクエスチョンを明確にする
- 先行研究を収集する
- 収集した先行研究を採択・除外する
- 個々の研究を評価する
- エビデンス総体を評価する
- レポートを作成する



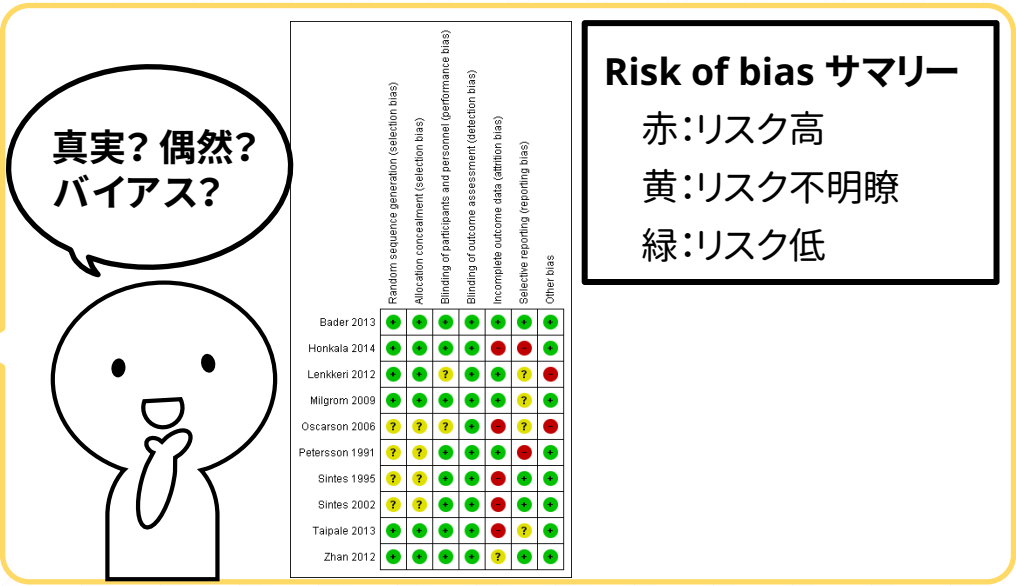
PRISMA フローチャート
（文献検索と選択のプロセスが記載される）

- 関連文献を複数のデータベース等で網羅的に検索し、あらかじめ定めた選択基準・除外基準に従って分析の対象とする文献を選ぶ
- このシステマティックレビューのケースでは1716件の先行研究を収集し、最終的に評価の対象になった研究は10件
- 透明性、再現性を高めるため検索方法や論文選別の過程は記録する

Riley, Philip et. al. Xylitol‐containing products for preventing dental caries in children and adults. Cochrane Database of Systematic Reviews. 2015, no. 3. https://www.cochranelibrary.com/cdsr/doi/10.1002/14651858.CD010743.pub2/full/ja, (参照 2022-08-25).

プロセスと特徴

- リサーチクエスチョンを明確にする
- 先行研究を収集する
- 収集した先行研究を採択・除外する
- **個々の研究を評価する**
- エビデンス総体を評価する
- レポートを作成する



Risk of bias サマリー

赤：リスク高

黄：リスク不明瞭

緑：リスク低

- 分析対象となった研究をリスクオブバイアス（誤った結論に導かれる可能性のあるエラー）の種類ごとに評価する
- 例）選択バイアス：ランダム化のプロセスで生じるバイアス（患者の介入群・対照群への割付がランダムではない など）
- 例）症例減少バイアス：意図した介入からの逸脱によるバイアス（解析から除外されている症例が結果に影響している など）

Riley, Philip et. al. Xylitol-containing products for preventing dental caries in children and adults. Cochrane Database of Systematic Reviews. 2015, no. 3. https://www.cochranelibrary.com/cdsr/doi/10.1002/14651858.CD010743.pub2/full/ja, (参照 2022-08-25).

背景

エビデンスに基づく医療（Evidence-Based Medicine: EBM）の実践が
重視されるようになった

活用場面

臨床現場における意思決定

- 最新の知識のまとめを入手できる
- 診療ガイドラインの基礎となる

研 究

- 最新の研究動向を理解できる
- さらなる研究が必要なテーマがわかる

健康政策立案

- 科学的根拠に基づいた医療政策
  cf.) Evidence-based Policy Making
- 医療技術評価

機能性表示食品の届出

- 事業者がシステマティックレビューを行い、消費者庁に届け出ることで機能性*を表示できる
  *脂肪の吸収を抑える、糖の吸収をおだやかにする など

著者にとってのシステマティックレビュー

システマティックレビューの出版数は年々増えている

- 学術的・社会的な貢献ができる
- 自分の研究分野に関する知識や新たな研究アイデアを得られる
- 医学分野ではシステマティックレビューは
  他論文から引用される可能性が高い*
- 学会の診療ガイドライン委員に任命されるケースも

* Tahamtan, Iman, Afshar, Askar Safipour, Ahamdzadeh, Khadijeh. Factors affecting number of citations: a comprehensive review of the literature. Scientometrics. 2016, vol. 107, no. 3, p. 1195–1225.

図書館員の役割

先行研究の収集を中心に、専門家としての役割を果たすことができる

IOM

システマティックレビューに着手するための基準

基準2.1.3　関連するエビデンスの検索にくわしい専門家を含める

個々の研究を探し評価するための基準

基準3.1.1　図書館員もしくはシステマティックレビューの実施訓練を受けているその他の情報専門家と連携し、検索式を立案する

Cochrane

Cochrane Handbook: Chapter.4
Searching for and selecting studies

4.2.1　医療/ヘルスケア司書と情報専門家は、コクラン レビューの作成に不可欠な役割を果たします。

- データベースの選択
- 検索戦略の設計
- 検索の実行
- 検索結果の保存、共有
- Methods の草案作成
- 文献管理のアドバイス

* 相原守夫. 診療ガイドラインのためのGRADEシステム. 第3版, 中外医学社, 2018.

**“Chapter 4: Searching for and selecting studies”. https://training.cochrane.org/handbook/current/chapter-04, (参照 2022-09-13).

Part1 まとめ

Part 1 では以下の内容についてお話ししました

- システマティックレビューとは、論文を網羅的に検索し、
  分析・統合した総説である
- システマティックレビューは論文の徹底的で再現可能な検索が必要とされる
- 図書館員はシステマティックレビューにおける先行研究の収集において
  専門家としての貢献（検索の質と中立性の向上、文献検索にかかる負担減）が
  期待されている

今でこそ
大図研全国大会のような場で
お話しする機会をいただいておりますが

なんでも聞いて
くださって
かまいませんのよ?

← えらそう

サービス開始前は
なにをどうすればよいか
途方に暮れていました

専門家としての
貢献が期待されてると
言われてもさー

サービスのきっかけを
つくってくださった
先生は「外科教育」が
ご専門だからなのか

親身かつ熱心に
指導してくれました

先生

協会賞の受賞を
いちばん
よろこんでくれた

いろんな方に
お世話になり
ここまできました

今度は
恩返しできたら
うれしいです

多謝!!

詳しそうな方を
つかまえては

おしえて!

とお願いしたり

検索式のチェックを
引き受けていただいたり

神はいた

PART 2　システマティックレビュー執筆支援の実際

Part2 について

Part 2 では主に以下の内容をお話しします

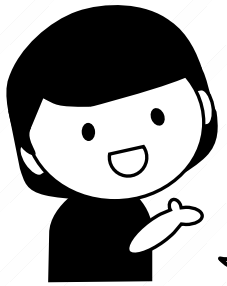
- 文献検索相談・代行サービスの体制と利用状況
- システマティックレビュー執筆支援のプロセス

- あくまでも当館でのやり方であり、この方法が必ずしも正しいプロセスというわけではありません
- 特に断りのない限り、紹介する事例は以下のSRに携わった際のものです
  Tsujii, Noa, et al. "Effect of continuing and discontinuing medications on quality of life after symptomatic remission in attention-deficit/hyperactivity disorder: a systematic review and meta-analysis." The Journal of clinical psychiatry 81.3 (2020): 11514.

文献検索相談・代行サービス

研究者が各自の研究テーマに応じた先行研究調査を行うにあたって
図書館スタッフがアドバイスを行う、もしくは文献検索を代行するもの*

相 談



検索式 / データベース
結果の保存 / 文献管理
等に関するアドバイスを行います

主に大学院生・学部学生が利用

代 行

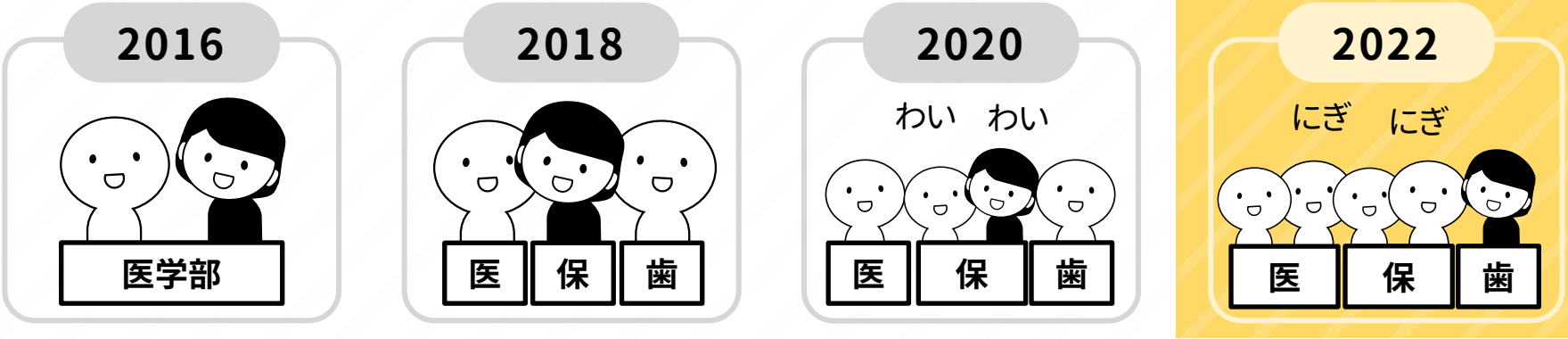
打ち合わせ / 検索式作成
検索の実行 / 結果の共有
を図書館スタッフが行います

システマティックレビュー執筆支援はこちら

*北海道大学附属図書館 医系グループ. “文献検索相談・代行サービス”. Hokkaido University Library. https://www.lib.hokudai.ac.jp/med/search/ (参照 2022-08-16).

サービス体制

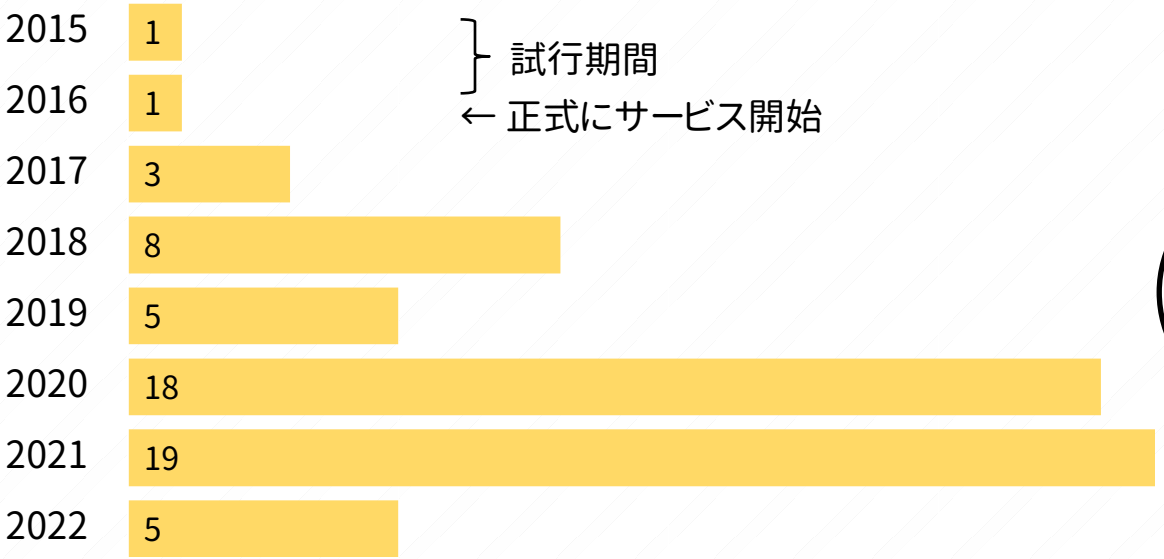
2016年7月 サービス開始 / 現在は3部局をまたいだ5名体制



- 当館は2018年に研究支援の高度化と人材育成を目的として、部局図書室をこれまでの利用支援課から研究支援課の6つのグループに再編しました
- 医学部・保健学科・歯学部・薬学部の図書室で構成される「医系グループ」では、各図書室の若手・中堅職員が連携して研究支援活動を実施しています

利用状況

年度別 申込人数(名)



2022年度は9月15日現在

利用状況

所属別 申込人数（名）

身分別 申込人数（名）

目的別 申込人数（名）

代行検索のプロセス

システマティックレビューのプロセス

- リサーチクエスチョンを明確にする
- 先行研究を収集する
- 収集した先行研究を採択・除外する
- 個々の研究を評価する
- エビデンス総体を評価する
- レポートを作成する

当館の代行検索のプロセス

- 申込受付
- 検索担当者決定
- 事前調査・予備検索
- 依頼者との打ち合わせ
- 検索式作成・修正
- 検索式確定・検索の実行
- 記録

申込受付、検索担当者の決定

申込フォームで受付

依頼者の所属部局のスタッフを中心に2-3名

北海道大学附属図書館 医系グループ. “文献検索相談・代行サービス”. Hokkaido University Library. https://www.lib.hokudai.ac.jp/med/search/ (参照 2022-08-16).

事前調査・予備検索

RQ に関する基礎的な知識

概念・定義・特徴

標準的な治療法・治療薬

主題の分析・抽象化

- 教科書、今日の診療、MSDマニュアル、既存のガイドラインなどを参照します
- 不明点は打ち合わせ時に確認します

キーワード候補の確認

RQを PICO に定式化

P　: Patient（患者）
I　: Intervention（介入）
C　: Comparison（比較）
O　: Outcome（結果）

シソーラス

キーワードやその同義語等

予備検索

既存のレビュー論文の特定

いくつかの適合文献候補の特定

およそのヒット件数の把握

RQ＝リサーチクエスチョン

事前調査・予備検索

リサーチクエスチョンをPICOへ定式化

RQ：注意欠如・多動症治療薬を用いて治療を実施し、機能的寛解をみた
注意欠如・多動症の小児・成人において薬物療法の中止は推奨されるか？

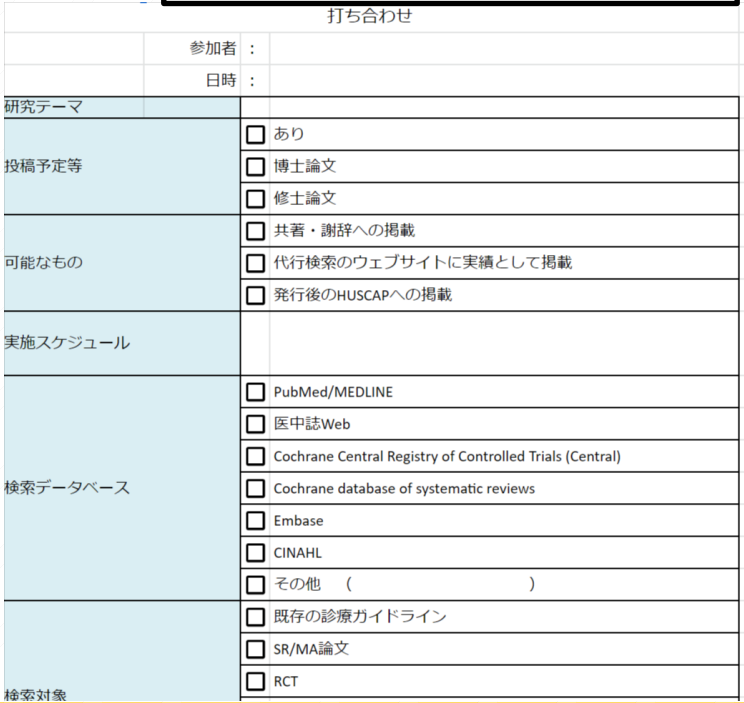
P	: Patient（患者）	注意欠如・多動症の患者が
I	: Intervention（介入）	薬物療法の中止をすると
C	: Comparison（比較）	薬物療法の継続に比べて
O	: Outcome（結果）	QOL、再発率はどうなるか？

依頼者との打ち合わせ

対面 もしくは オンライン で以下の点について確認を行う

RQ・研究テーマ	研究デザインによる 絞込みの要否
スケジュール	言語・年代による 絞込みの要否
検索を行うデータベース	包含基準 / 除外基準
自力で検索をしたか	把握している 適合文献はあるか
書誌情報の共有方法	共著・謝辞への掲載可否
投稿予定	当館ウェブサイトへの 掲載可否

当館で使用しているテンプレート



打ち合わせ

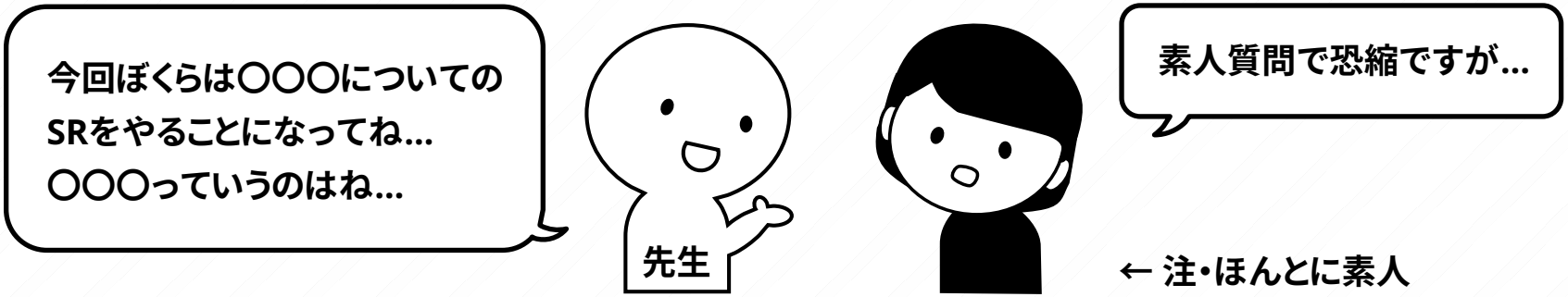
参加者 ：

日時 ：

研究テーマ	
投稿予定等	☐ あり
	☐ 博士論文
	☐ 修士論文
可能なもの	☐ 共著・謝辞への掲載
	☐ 代行検索のウェブサイトに実績として掲載
	☐ 発行後のHUSCAPへの掲載
実施スケジュール	
検索データベース	☐ PubMed/MEDLINE
	☐ 医中誌Web
	☐ Cochrane Central Registry of Controlled Trials (Central)
	☐ Cochrane database of systematic reviews
	☐ Embase
	☐ CINAHL
	☐ その他 （ ）
検索対象	☐ 既存の診療ガイドライン
	☐ SR/MA論文
	☐ RCT

依頼者との打ち合わせ

RQ について依頼者に説明してもらう



- あらかじめ簡単な資料を用意してもらえるとなおよいと思います
- （たいてい、わかりやすく説明してくれますが）よくわからない点は遠慮なく質問しましょう
- とはいえ、打ち合わせ時には質問が思い浮かばず、検索式を作成中に疑問点が出てきてメールでお尋ねすることも多いです
- ともかく、わかったふりをしないことが大事です

依頼者との打ち合わせ

検索を行うデータベースの相談

必須級	主題・ケースによる
MEDLINE / PubMed	Web of Science（全分野）
EMBASE*	CINAHL（看護）
Cochrane CENTRAL	Clinical Trials.gov（臨床試験）
	医中誌Web（国内）

- 使用データベースの選択について図書館スタッフがアドバイスする場合もあります
- EMBASEについては本学で契約していない旨お伝えすると検索をあきらめる先生が多いです
- ADHD の事例では国立保健医療科学院（埼玉県和光市）にて EMBASE の検索をさせていただきました
- EMBASE についてはほかに個人契約（7日間～）**や代行検索業者に依頼する方法もあります

* 本学で契約なし

** https://www.elsevier.com/solutions/embase-biomedical-research

依頼者との打ち合わせ

検索担当者のエフォートが業績として残るよう 共著・謝辞・協力者 等への掲載を依頼

共著の例

META-ANALYSIS

Effect of Continuing and Discontinuing Medications on Quality of Life After Symptomatic Remission in Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder: A Systematic Review and Meta-Analysis

Noa Tsujii, MD, PhD[a]; Takashi Okada, MD, PhD[b,*]; Masahide Usami, MD, PhD[c]; Hidenori Kuwabara, PhD[d]; Junichi Fujita, MD, PhD[e]; Hideki Negoro, MD, PhD[f]; Michiyo Kawamura, BHHSc[g]; Junzo Iida, MD, PhD[h]; and Takuya Saito, MD, PhD[i]

謝辞の例

Acknowledgments: The authors thank Mr Takanori Kikuchi, BACom, and Ms Yukari Kono, BA (Medical Sciences Group, Research Support Division, Hokkaido University Library), who assisted with the literature review. Mr Kikuchi and Ms Kono have no conflicts of interest to declare. We would like to thank Enago (**https://www.enago.jp**) for the English language review; the work done by Enago was not funded by an outside source.

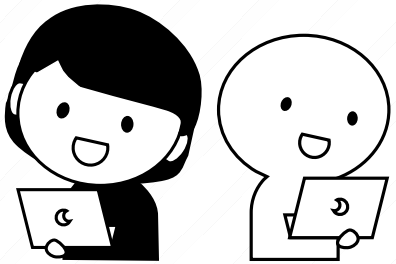
- 「まだ歴史の浅いサービスなので実績を目に見える形で積み上げていきたいのです」などと説明しています
- 「このサービスはおいくらですか?」と聞かれた際、「無料ですが、その代わりに…」とお願いすることも多いです
- たいてい「もちろんです!」と快諾いただけます

Tsujii, Noa, et al. "Effect of continuing and discontinuing medications on quality of life after symptomatic remission in attention-deficit/hyperactivity disorder: a systematic review and meta-analysis." The Journal of clinical psychiatry 81.3 (2020): 11514.

検索式作成・修正

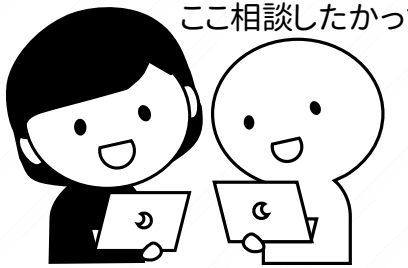
検索担当者が各自で検索式を作成後、すり合わせて初案をまとめる

まずはPubMedの検索式案をそれぞれ作成



ここまで1週間

検索式を記載したスプレッドシートを共有



さらに1週間

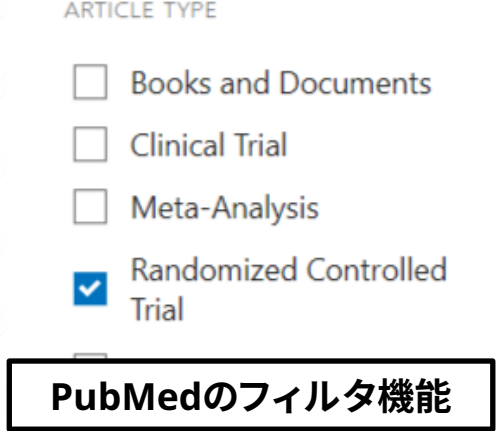
修正・統合した案をまとめる

- 2名以上で検索を担当することで、自分にはなかった視点や見落としに気づくことができ、水準の高い検索式の作成に近づきます
- 意見交換はSlackで行っています
- 何パターンかの検索式を作成し、依頼者と相談することもあります

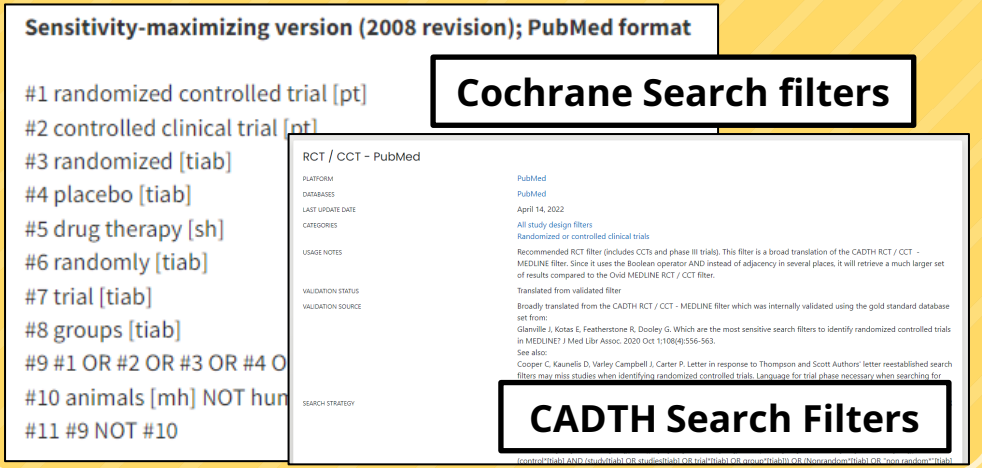
検索式作成・修正

研究デザインで絞り込む際は、データベースのフィルタではなく
Cochrane* や CADTH** で検証されているフィルタを使用する

×



○



* https://work.cochrane.org/pubmed

** https://searchfilters.cadth.ca/

検索式作成・修正

- 依頼者から提示された適合文献が作成した検索式でヒットするかどうかは妥当な検索式となっているかのひとつの目安となる
- 2パターンの検索式をNOT検索し、差分を確認することで良し悪しを判断できる

- 適合文献がヒットしない場合は原因を探り、検索式に含めた方がよいシソーラスやキーワードがないか確認します
- 依頼者とメール、オンライン打ち合わせで意見を聞きながら修正を進めます
- どうしてそのような検索式にしたのかを依頼者に説明できるのが大事かと思っています

検索式作成・修正

作業用テンプレート（Googleスプレッドシート）では
ヒット件数や既知文献のヒット状況が素早く把握できるよう効率化が図られている

ヒット件数の自動反映

16	キーワード表		
17	高齢者		
18		Aged[MH]	3,414,505

```
=IMPORTXML("https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/?term="&B18,"//*[@id='search-results']/div[2]/div[1]/div[1]/span")
```

既知文献のヒット状況

	A	B	C
1	既知文献のPMID	検索結果①のPMID	
2	[redacted]	25804386	○
3	[redacted]	32785021	○
4	[redacted]	34201810	○
5	[redacted]	32178373	×
6	[redacted]		

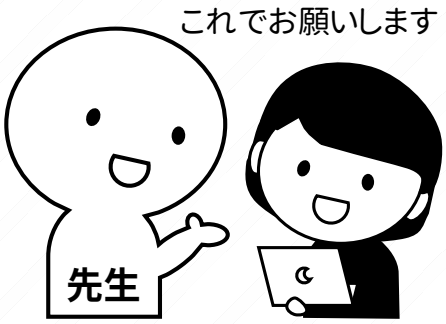
```
=IF(COUNTIF($B:$B,A5),"○", "×")
```

- 依頼者に提出する検索式を記載したファイルは、作業用テンプレートとは別に作成します

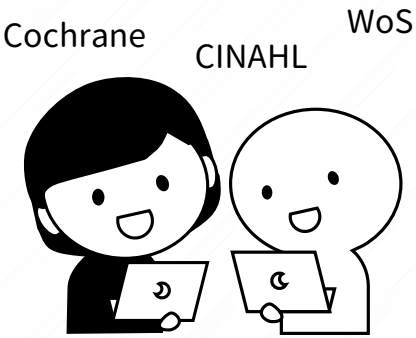
検索式確定・検索の実行

依頼者との数回のやり取りを経て、
PubMed の検索式がfixしたら、各データベースの検索式に翻訳し、検索を実行する

PubMedの検索式 fix



他のデータベースでも検索



検索結果をまとめる

- CINAHLなど、独自のシソーラスがあるデータベースで検索を行う場合は、翻訳に際して特に注意が必要です

検索式確定・検索の実行

検索式と検索結果を依頼者と共有する

検索式

当館で使用しているテンプレート

CQ3	注意欠如･多 小児･成人に

検索結果

#	検索語	文献数
#1	(Attention Deficit Disorder with Hyperactivity/drug therapy[MH] OR ADHD[TIAB] OR AD/HD[TIAB] OR AD-HD[TIAB] OR ADDH[TIAB] OR attention def* [TIAB] OR "brain dysfunction"[TIAB])	34810
#2	Withholding Treatment[MH:NoExp] OR Placebo Effect[MH]	14982
#3	(drug*[TIAB] OR Pharmacotherap*[TIAB] OR medication*[TIAB] OR "Central Nervous System Stimulants"[MH] OR stimulant[TIAB] OR "non-stimulant"[TIAB] OR "Adrenergic alpha-Agonists"[MH] OR "alpha adrenergic agonist"[TIAB] OR "alpha adrenergic receptor"[TIAB] OR "Dopamine Uptake Inhibitors"[MH] OR "dopamine reuptake inhibitor"	1758504

検索結果

EndNote Online

- テンプレートは Mindsのもの* を改変し利用しています
- 検索結果の共有には文献管理ツールのほか文献スクリーニングのための無料ツールRayyan** を使用する場合もあります

* https://minds.jcqhc.or.jp/s/manual_2020_3_0#template　SR-1データベース検索結果

** https://www.rayyan.ai/

記録

以下を共有フォルダに保管する

申込者氏名・所属・件数・検索担当者名（サービス統計の基礎となる）

最終的な検索式

各文献データベースの検索結果（nbibファイルやRISファイル）

- 数か月後に検索終了後～現在までに発行された文献の検索を追加で依頼されることもあります
- 忘れた頃に共著の関係で依頼者から連絡が来ることがあるため、主担当者・副担当者を記録しておくとよいです（ほかの著者とのバランスで1人しか共著者になれないことがある）
- すでに当時の検索担当者が異動していたりで、だれがメインでやりとりしていたのか忘れてしまいがちなのです…

パブリッシュされたら

ウェブサイトの「これまでの実績」に記載

これまでの主な実績

申込年度	タイトル等
2017	Yokoyama, Shinichiro, Kenichi Mizunuma, Yo Kurashima, Yusuke Watanabe, Tomoko Mizota, Saseem Poudel, Takanori Kikuchi, Fujimi Kawai, Toshiaki Shichinohe, and Satoshi Hirano. 2019. "Evaluation Methods and Impact of Simulation-Based Training in Pediatric Surgery: A Systematic Review." *Pediatric Surgery International* 35, no. 10 (2019): 1085-94. https://doi.org/10.1007/s00383-019-04539-5.
2018	齊藤卓弥, 辻井農亜, 宇佐美政英, 桑原秀徳, 藤田純一, 根来秀樹, 川村路代, 飯田順三, and 岡田俊. 2019. "精神科薬物療法の出口戦略を考える　ADHD薬物治療の出口戦略を考える." 精神神経学雑誌, no. 2019特別号: S746.
2018	Tsujii, Noa, Takashi Okada, Masahide Usami, Hidenori Kuwabara, Junichi Fujita, Hideki Negoro, Michiyo Kawamura, Junzo Iida, and Takuya Saito. "Effect of continuing and discontinuing medications on quality of life after symptomatic remission in attention-deficit/hyperactivity disorder: a systematic review and meta-analysis." *The Journal of clinical psychiatry* 81, no. 3 (2020): 19r13015. https://doi.org/10.4088/jcp.19r13015
2018	辻井農亜, 岡田俊, 宇佐美政英, 桑原秀徳, 藤田純一, 根来秀樹, 川村路代, 飯田順三, and 齊藤卓弥. 2020. "薬物療法により症状が安定したADHD患者において、薬物療法の中止はADHD症状を再発させるのか?" 日本神経精神薬理学会年会・日本生物学的精神医学会年会・日本精神薬学会総会・学術集会合同年会プログラム・抄録集 50回・42回・4回: 202.
2018	辻井農亜, 岡田俊, 宇佐美政英, 藤田純一, 根来秀樹, 飯田順三, and 齊藤卓弥. 2020. "薬物療法により症状が安定した注意欠如・多動症患者において、薬物療法は終了できるのか?" 日本児童青年精神医学会総会抄録集 61回: P-15.

- 論文やガイドライン等がパブリッシュされたら連絡をいただけるよう依頼者にはお願いしておきます

申込からパブリッシュまで

論文のパブリッシュまでとなると年単位のスケジュール感となる

2018年

1	2	3
4	5	サービス申込
7	PubMed 検索式確定	EMBASE 検索出張
10	11	12

2019年

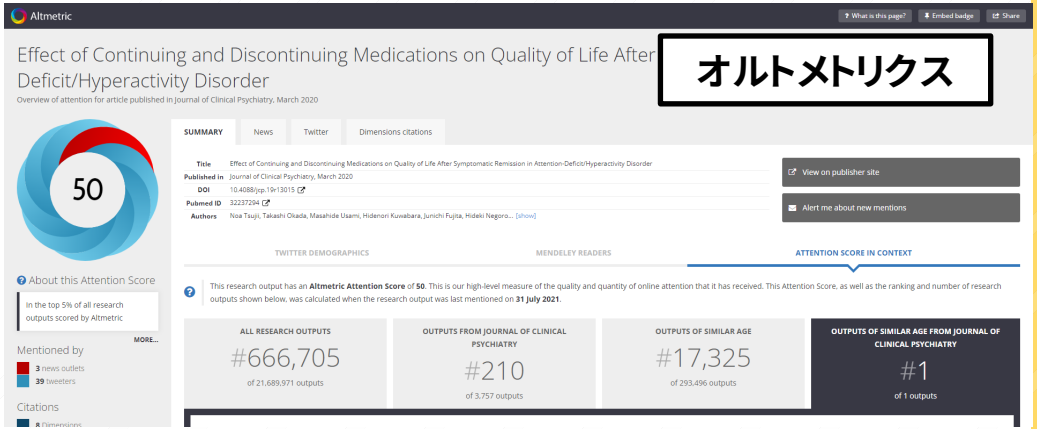
1	2	3
4	5	6
投稿	8	9
再投稿	再々投稿	アクセプト

2020年

1	2	Publish
		6
10	11	

- 1件の申込に対して労力・時間がかかるため、他サービスに比べると単純な依頼件数は多くありません

被引用数、オルトメトリクス



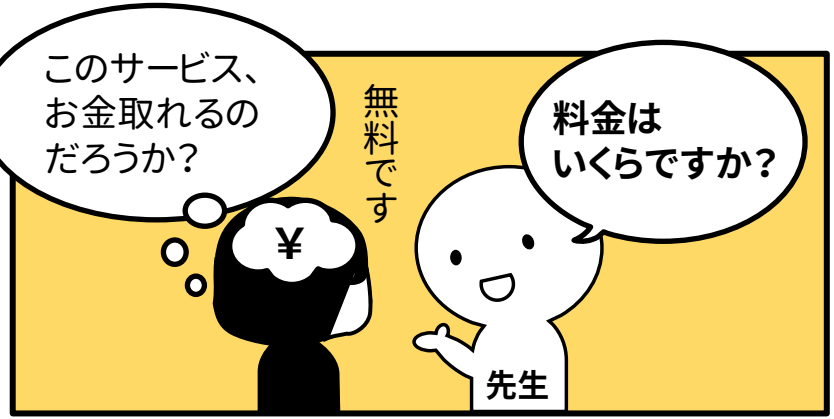
“Altmetric – Effect of Continuing and Discontinuing Medications on Quality of Life After Symptomatic Remission in Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder”. https://www.altmetric.com/details/78225670#score , (参照 2022-08-26).

Part2 まとめ

Part2 では以下の内容をお話ししました

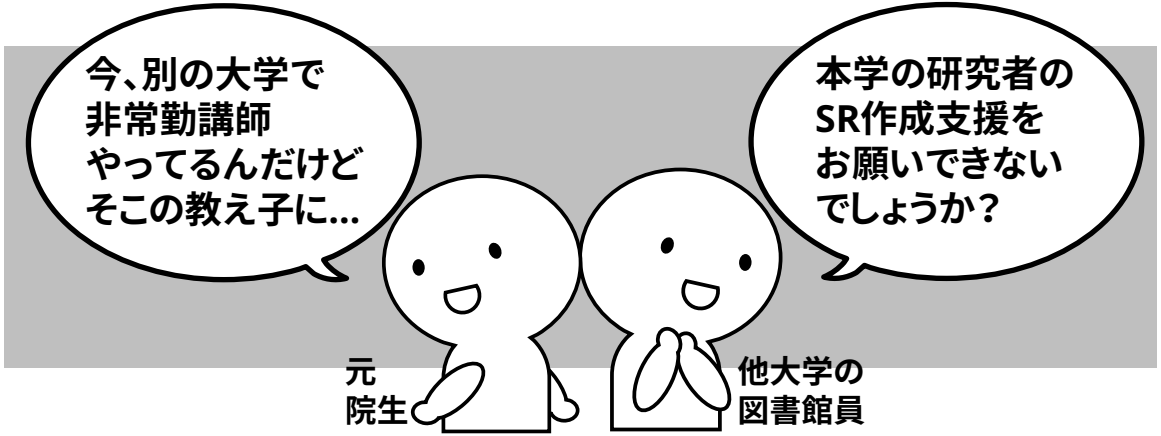
- 医系グループの図書室に所属する若手・中堅職員5名で取り組んでいる
- リピーターや口コミでの依頼が増え、ほぼ間断なく申込がある
- サービス開始から数年たち、支援プロセスは明確で体系的なものとなっている

代行検索サービスあるある？



※海外では有料で文献検索サービスを実施している図書館もあります

一方、ご期待に沿えなかった例も



PART 3　サービスの立ち上げから仕組み化までに生じうる困難とそれを打破するための方法

Part3 について

Part 3 では主に以下の内容をお話しします

- よくお問合せいただく質問とそれに対する回答
- サービスの立ち上げまで、そしてサービス立ち上げ後に生じた困難や、困難を打破するため考え方

必要なスキルは？

- 文献検索
- EBM・SRのプロセス・統計に関する基本的な知識
- コミュニケーション能力
- 英語力

参考）システマティックレビューに関与する図書館員のコアコンピテンシー

- システマティックレビューの基礎
- プロセス管理とコミュニケーション
- 研究方法論
- 包括的文献検索
- データ管理
- 報告

* Townsend, Whitney A., Anderson, Patricia F., Ginier, Emily C., MacEachern, Mark P., Saylor, Kate M., Shipman, Barbara L., Smith, Judith E. A competency framework for librarians involved in systematic reviews. Journal of the Medical Library Association : JMLA. 2017, vol. 105, no. 3, p. 268–275.

スキルを身に着ける方法は？

研修

- JMLA 診療ガイドライン文献検索ワークショップ

書籍

- 看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説 / 諏訪敏幸著
- 医学文献ユーザーズガイド : 根拠に基づく診療のマニュアル / Gordon Guyatt [ほか編] ; 相原守夫訳
- 学びなおしEBM : GRADEアプローチ時代の臨床論文の読みかた / 豊島義博, 南郷里奈, 蓮池聡編
- 図解PubMedの使い方 : インターネットで医学文献を探す / 大﨑泉, 成田ナツキ共著
- PICOから始める医学文献検索のすすめ / 小島原典子, 河合富士美編集

Web

- Minds診療ガイドライン作成マニュアル
- Cochrane Handbook

＋ **実践**

- スキル・知識は事前にある程度持っていた方がよいですが、すべてのスキルや知識を獲得し、完璧に自信がつくのを待っていたらいつまでもサービスをはじめられません
- ある程度走りながら学ぶことも必要かと思います
- 必要物品は思い当たりません（EndNote製品版があればうれしいですが、なくても差支えはありません）

オーソライズは？ サービス規定は？ 広報は？

- オーソライズ…係長の了承
- サービス規定…なし
- 広報…ウェブサイト・チラシ・講習会での宣伝・口コミ

附属図書館 医系グループ

令和３年度 国立大学図書館協会賞 受賞！

文献検索相談・代行サービスのご案内

対 象　医学部（含・保健学科）、病院、歯学部、薬学部および関連部局の学生・教職員・看護師の方

サービス内容

「文献検索相談・代行サービス」は、医学・生命科学文献の検索を研究者のみなさんに代わり図書館スタッフが行うサービスです。国内外のデータベースからの文献調査を、検索テーマやキーワードをご相談の上、図書館スタッフが代行します。このほか、データベースの利用法、文献の管理や入手方法のアドバイスも可能です。

トレーニングを受けた図書館スタッフが検索テクニックとノウハウをフルに活用し、ニーズに合わせた情報をご提供しますので、文献検索にご不安のある方はもちろん、忙しい中で論文作成を行う研究者の方もぜひご利用ください。

検索可能なデータベース

● 海外データベース　MEDLINE、PubMed 、The Cochrane Library、Web of Science、CINAHL など
● 国内データベース　医中誌 Web、CiNii など

料金

● 無料

ご利用の流れ

ご依頼　申込フォームから必要事項を送信してください。調査対象データベースや、研究テーマ・キーワードがあればあわせてお知らせください。

打ち合わせ　検索テーマ、キーワード、PICO、使用データベース、検索年代の範囲等について詳細に打ち合わせさせていただきます。

検索式のご提案　検索式をご提案いたします。検索結果を参照いただき、必要があれば何度でも修正いたします。

検索結果の共有　各データベース間の重複を除いた上、文献管理ソフト＊を使って検索結果の書誌情報をお渡しいたします。
＊「EndNote」「EndNote Basic」「Mendeley」のほか、エクセルでの対応が可能です。

文献の入手　北大で入手できない文献については、他大学からの取り寄せを行うことができます。
※文献の取り寄せには料金がかかります。

過去のご活用事例

● システマティックレビューのための文献検索に
システマティックレビュー作成のために先行研究の網羅的な調査が必要とのことでご依頼をいただきました。
研究内容やキーワードの選定、使用データベース等打ち合わせの上、検索式についてメールで適宜ご相談しながら複数のデータベースを検索し、調査結果は文献管理ソフトの EndNote で共有いたしました。このほか、データベースの使い方や文献の取寄方法についてもアドバイスさせていただきました。もちろん研究内容についての秘密は厳守いたします。

お問い合わせ　北海道大学附属図書館 研究支援課 医系グループ
E-MAIL　：literacy02@ml.hokudai.ac.jp
申込フォーム：https://www.lib.hokudai.ac.jp/med/sear

チラシ

- 館内的には従来行ってきたレファレンスサービスの延長ととらえられているようです（?）
- 利用者に対してサービスとして可視化することは重要だと思います

人事異動があるから高度なサービスは無理では？

事業の継続性を考える上で、スキルやノウハウの継承が必要

×

属人的

○

- 業務内容を整理する
- マニュアルを作成する
- 担当者を複数おく
- 作業の透明性を上げる

標準化

スタッフの育成方法は？

異動や申込の集中にそなえ、複数名のスタッフを育成するのが望ましい

メイン

通常業務

- 講習会・授業の講師

OJT

- 先輩スタッフとともに
  実務を通じて学ぶ

Off-JT

- JMLA コア研修
- 診療ガイドライン
  文献検索ワークショップ
- 自学自習

- 自前の研修をできたらとも思いますが手が回っていません
- 逆に、システマティックレビュー執筆支援の経験は授業や講習会で講師をする際にも役に立ちます

懐疑的な上司や同僚には？

- メーリングリストは上司も閲覧できるようにする
- 他業務で効率化できるところはする
- まめに成果（件数・論文化・書籍化）を報告する
- 成果（利用者や外部の評価）でだまらせる？

- リソースを要する業務であり、依頼を受けられる件数に限度があるため、定量的な評価が難しいのは確かです
- 北大図書館は職員数や若手のチャレンジを促す土壌など、恵まれている方だと思います

利用者の反応は？

おおむね好意的

- プロのお仕事、ありがとうございます。やっぱりすごいですね！
- 検索式の質の高さに感心しました
- 無料でいいのですか？
- 検索式作成過程で細かいすり合わせをしてもらえたのがよかった
- またお願いしたい

- 依頼者の満足度を調査する事後アンケートを最近始めました

図書館（員）にとってのメリットは？

図書館のイメージ改善につながる

- 「必要な情報は用意しておきましたんでお使いください」から
  研究のパートナーに

他の研究支援活動への波及効果

- 頼りにしてよい存在と認識される → 講習会の依頼、研究業績評価等の問合せ
- 文献検索や文献管理ツールを利用する側の経験をたくさんするので
  授業の講師や利用者からの質問に答える際に役に立つ

専門職としてのキャリアにプラスに？

Part3 まとめ

PART3 では以下の内容をお話ししました

- システマティックレビュー執筆支援を行う上で必要なスキルについては、
  事前に学習することも必要だが、実践が一番の学びとなる
- 事業の継続性や申込の集中にそなえ、
  サービスの標準化や複数名のスタッフを育成し
  また周囲の理解を得られることが望ましい
- 利用者の反応は好意的であり、システマティックレビュー執筆支援は
  図書館の活動や図書館員個人のキャリアにとってプラスとなりうる

本日お話したこと

Part 1　システマティックレビューとは

Part 2　システマティックレビュー執筆支援の実際

Part 3　サービスの立ち上げから仕組み化までに
生じうる困難とそれを打破するための方法